



国際戦略局国際戦略課課長補佐
丸山 祐輔 MARUYAMA YUSUKE

平成17年10月 総務省採用
郵政行政局信書便事業課
平成20年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課
平成21年 4月 総合通信基盤局総務課
平成22年 8月 日墨研修(メキシコ留学)
平成23年 7月 大臣官房会計課
平成24年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課
電波利用科企画室経済係長
平成26年 8月 大臣官房政策評価広報課広報室報道係長
平成28年 7月 大臣官房会計課予算総括係長
平成29年 6月 情報流通行政局衛星・地域放送課
地域放送推進室主査
平成30年 1月 情報流通行政局衛星・地域放送課
地域放送推進室高度化推進係長
平成30年 6月 在ベルー日本国大使館二等書記官
令和 3年 7月 情報流通行政局放送政策課計画係長
令和 4年 7月 現職



情報流通行政局放送政策課係員
野木 彩夏 NOGI AYAKA

平成31年 4月 総務省採用
情報流通行政局情報流通振興課
令和 元年 6月 情報流通行政局地域通信振興課地方情報化推進室
令和 2年 4月 情報流通行政局地域通信振興課デジタル経済推進室
令和 3年 7月 現職

デジタル分野での国際連携強化に向けて

国際連携は喫緊の課題

ウクライナ危機が長期化し、安全保障をはじめとした国際連携がより一層重要になっている中で、今年G7サミット(主要国首脳会議)が広島で開催されます。デジタル分野でもその重要性は変わらず、関係閣僚会合として「G7デジタル・技術大臣会合」が群馬県高崎市で行われます。

私は現在、大臣会合で日本の取組や先進技術をアピールするための展示や広報を担当しています。円滑な会合開催はもちろん、日本の高い技術力をアピールし、日本がデジタル分野でのG7各国と連携したルール作りを主導していけるよう、日々準備を進めています。

多様な仕事と人とのつながり

役所の仕事=退屈なデスクワークと考えられている方も多いと思いますが、私は入省5年目にメキシコへ語学留学したり、2018年から赴任した在ベルー日本国大使館では、通信・経済関係の本来業務に加えて、コロナ禍で出国できなくなった邦人の帰国を支援する領事業務を経験しました。また、前の職場では、国際電気通信連合(ITU)の局長選挙に立候補した尾上氏の当選を目指して、これまで学んだスペイン語で中南米各国の代表団へ支持要請の働きかけを行ったことも印象に残っています。

総務省は、希望すれば挑戦する機会が与えられ、役所の中だけでなく民間企業や海外の方と関わる機会が多い職場だと感じています。

Private Time

旅行が好きなので、週末にふらっと温泉に行くこともあります。コロナの影響でなかなか海外には行けませんが、昨年は出張で訪れたルーマニアで休日に塩鉱山を見学しました。コロナと仕事が落ち着いたらまとまった休暇を取って、ペルーを再訪できたらなあと思っています。



Q 総務省(各系統)を志望した理由は何かですか?

A もともとテレビやラジオが好きで放送に関わる仕事がしたいと思っていたこと、就職活動で自分の性格に合う仕事は何かと考えた結果、総務省を志望しました。入省以降、郵便や通信、放送などの主に制度作りですが、情報を伝える仕事という意味では当初の希望が叶ったと思っています。

Q 海外での赴任経験が総務省の業務にどのように活かされていますか?

A 私が留学・赴任した中南米は良くも悪くも適当で陽気なラテンの国だったので、多少物事が予定どおりに進まなくても臨機応変に対応できるようになりました。省内でもお役所仕事の改革が進んでおり、今後も職場環境の更なる改善が期待されます。

変化に対応した制度作り

放送分野のこれから

私が働いている放送政策課では、人口減少の加速化、情報空間の放送以外への広がり、広告市場の縮小等近年の放送を取り巻く環境の変化を踏まえ、放送制度の在り方について、検討会を開催し、そこで示された方向性を基に制度の見直しを行っています。放送は、災害情報や地域情報の共有、取材に裏打ちされた信頼性の高い情報発信といった役割があり、これらを今後も維持・発展させていくため、放送事業者の経営の選択肢を拡大する観点から制度の見直しを検討しています。実際に制度化するにあたっては、現行制度の分析・理解、また、参考となる他制度を分析する等、多くの知識を必要としますが、より良い制度・未来に向け、チーム一丸となって仕事をしています。

道しるべを作る

以前は、スマートシティの推進を担当していました。スマートシティとは、ICTを活用し、地域の抱える諸課題の解決を行い、新たな価値を創出し続ける、持続可能な地域を言います。自治体によっては、ICTをどう活用すべきか、様々な業種・関係者との調整をどう進めるべきか悩む声がありました。そこで、総務省では、他府省と共同し、企業や先行する自治体にヒアリングを行い、スマートシティの進め方、国内外の先行事例における成功・失敗体験等を調査し、ガイドブックを作成しました。まず、国が先陣を切り、物事を進めていくことは、時に重要であり、総務省ならではのやりがいのある業務だと思います。

Private Time

休日は、同期や友人と旅行に行くことが多いです。旅行先では、その土地の美味しいご飯を食べたり、自然に触れ合ったりと気持ちをリフレッシュさせています。年次休暇も取りやすいので、休暇を繋げて遠出することもよくあります。

Q 実際に働いてみて、入省前のイメージと違ったことは?

A 1日中パソコンに向かって事務仕事をするというイメージがありましたが、想像よりも人との関わりが多いです。総務省では、若手であっても、自由に自分の意見を言える雰囲気があり、主体的に仕事に向き合いたい人にピッタリの仕事だと思います。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージをお願いします。

A 公務員は、試験勉強もあり大変ですが、「自分が何に興味があるか」「自分は何をしたいか」を考えることがすごく大切だと思います。そのため、気になる府省庁等の説明会には出来る限り参加し、考えるきっかけを作ることが大事だと思います。是非総務省の説明会にも足を運んでいただき、業務内容や総務省職員の人柄を見に来ていただければと思います。





サイバーセキュリティ統括官室主査

服部 裕史 HATTORI YUJI

平成22年 4月 総務省採用
 総合通信基盤局電波部電波政策課
 平成23年 4月 総合通信基盤局電波部移動通信課
 平成25年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
 平成27年 8月 情報流通行政局衛星・地域放送課
 平成29年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
 航空係長
 令和 元年 7月 総合通信基盤局電波部電波政策課開発係長
 令和 3年 4月 現職



総合通信基盤局電気通信事業部
 消費者行政第二課調査係長

岩井 優介 IWAI YUSUKE

平成27年 4月 総務省採用
 情報通信国際戦略局国際政策課
 平成29年 7月 大臣官房総務課
 令和 元年 7月 サイバーセキュリティ統括官付参事官付
 令和 2年11月 情報通信政策研究所調査研究部
 令和 4年 6月 現職

正解のない道を進む

安心・安全なインターネット利用環境の整備

インターネットを活用したSNS等の新たなサービスは我々の生活をより便利にする一方で、誹謗中傷を含む名誉毀損やプライバシー侵害、海賊版サイトによる著作権侵害の問題も深刻化させています。

私が所属する消費者行政第二課では、こうしたインターネット上の違法・有害情報に対し、法律の整備やその円滑な運用のための事業者等によるガイドライン作成等の支援、相談窓口の設置・運営等の取組を関係者と連携しながら進めています。

働きやすい職場

総務省は、職員の様々な働き方をサポートしてくれる職場です。私は、現職の直前、配偶者同行休業制度を活用し、妻の海外赴任に帯同していました。男性による当制度の利用を聞いたことがなかったので、制度の利用やその承認について心配していましたが、人事担当や上司にも相談したところ、どの方も快く送り出してくれました。多様な働き方を支援する制度の整備のみならず、その活用を後押ししてくれるのも魅力の一つに思います。

日本のサイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ人材の育成

私は現在サイバーセキュリティに係る仕事をしており、その中でも人材育成業務を担当しています。現在、サイバー攻撃の悪質化・巧妙化が進む一方で、我が国のサイバーセキュリティ人材は質的にも量的にも不足しており、その育成が喫緊の課題となっています。それを解消するため、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)と連携し、サイバー攻撃に対する一連の対処を実際に体験する「実践的サイバー防御演習(CYDER)」を国の機関や地方公共団体向けに実施し、組織のインシデント対処能力の向上に貢献しています。そのための調整や、受講結果から見てくる課題を基に、より良い取り組みにするためにはどうしたらいいのかを日々検討しています。

総務省の職場の雰囲気について

入省前に私が持っていた「国家公務員」のイメージは、いわゆる上下関係がしっかりしていて会話も必要最小限といった、堅苦しいイメージでした。しかし、実際に総務省に入ってみると、若い人から年配の人まで仕事をしていますが、役職や採用区分によらず自由闊達に仕事の話ができますし、雑談も交わされる明るい職場でした。実は、職場内のそういう自由な雰囲気は、みんなが話しやすい空気を作るための一環でした。入省後最初はみんな緊張して自分の意見をそのまま伝えることができません。若手が意見できるようにするにはまずは話しやすい職場の空気作りからしていくのが大事だったのだと後で気づきました。

Private Time

総務省では、土日祝日と決まった休みを取得でき、夏には3日間以上の長期休暇を皆が取得可能です。そのため、計画的に旅行に出かけられ、いろんな場所を訪れることができました(コロナ禍前までは)。総務省での仕事は、デスクワークが多いので、日常を忘れ、定期的にリフレッシュすることはとても大事なことです。

- Q** 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？
- A** 入省3年目に行った国際会議が特に印象に残っています。当時消費者行政課にいた私は、カナダのモントリオールで開催された迷惑メール対策機関同士の情報交換等を行う会合に参加しました。本会合は定期的に行われ、例年質疑応答はほぼないと聞いていたのですが、私が発表した時には珍しく質問攻めに合い、対応に苦慮しました。同行した方々の協力で乗り越えられましたが貴重な経験となりました。
- Q** 今後、どのような業務に挑戦したいですか？
- A** 私はこれまで、携帯電話通信、衛星放送、航空無線通信と様々な業務に携わってきました。どれも一から学ぶ内容が多く、トレンドもどんどん変わるのでついていくのが大変です。それでも、今後も情報通信の第一線で活躍していければと考えております。



総合通信基盤局電波部
 基幹・衛星移動通信課衛星推進係長

山下 章夫 YAMASHITA AKIO

平成20年 4月 総務省採用
 総合通信基盤局電気通信事業部
 電気通信技術システム課番号企画室
 平成22年 7月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
 平成25年 7月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究推進室先端研究係長心得
 平成26年 8月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究推進室先端研究係長
 平成28年 7月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究開発調整係長
 平成29年 7月 国際戦略局技術政策課研究開発調整係長
 平成30年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部
 電気通信技術システム課
 安全・信頼性対策室事故分析係長
 令和 2年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課調整係長
 令和 4年 7月 現職

くらしに身近な電波で造る未来

有限希少な電波の有効利用

電波は、携帯電話をはじめ、国民生活には欠かせないサービスや重要な通信に広く用いられています。私は主に衛星通信を行う無線システムの導入に向けた制度整備や許可を担当しています。

最近では、衛星機器の小型軽量化や衛星打上げ費用の低廉化が進んだことにより、官民での衛星開発が活発になっています。特に、多数の小型衛星を低・中軌道に打ち上げて一体的に運用する「衛星コンステレーション」の構築が国内外で進んでおり、航空機や船舶での高速大容量な通信の実現や様々な用途での活用が期待されています。このような新たなシステムの導入に当たっては、同じ周波数を利用する他の無線システムとの共用調整が必要であり、日々取り組んでいます。

広い視野で物事に取り組む

情報通信分野は技術の進歩が速く、また世界的な競争が激しい分野です。日本がその流れに乗り遅れず、新しい技術の発展を妨げないように取り組む一方で、利用者の保護や既存のシステムへの影響に配慮した対応も求められます。広い視野を持ち、様々な観点からの検討が必要であり、バランス感覚が求められ大変な面もありますが、とてもやりがいのある業務だと思います。業務は一人で黙々と進めるわけではありません。現在の職場では、これから益々発展していくことが期待される衛星通信を扱っていますが、海外の動向にも目を向けながら、日本への導入に向けてどのように取り組んでいくべきか、一人で答えを出そうとすると大変ですが、同じ部署に所属する若手の人から上司まで、みんなでアイデアを出し合ったり議論しながらよりよい方法を検討しています。誰も意見でき、楽しく仕事ができる環境だと思います。みなさんも一緒に取り組んでみませんか。